

# NDC

屋内専用

## P型2級受信機1回線 露出型(予備電源付)

NBP233AE01

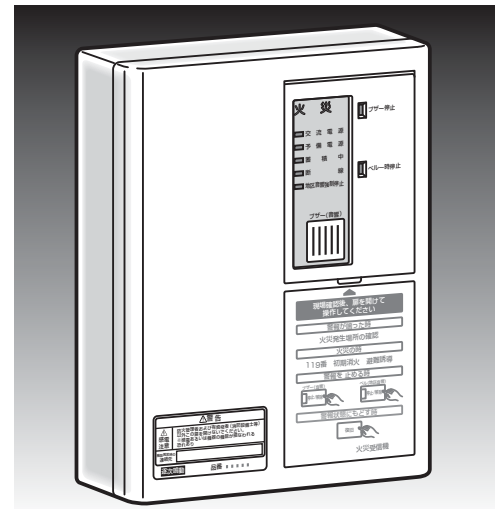
### 取扱説明書



Ni-Cd  
ニカド電池は  
リサイクルへ

- お買い上げありがとうございます。
- ご使用まえに必ずお読みいただき大切に保管してください。

保管用



### ご使用まえに

- この設備は、火災感知器などからの信号を受けて火災の発生を報知する働きをします。したがって、この設備は消火を行うものではありません。万一の火災などによる損害については、責任を負い兼ねますのでご了承ください。
- この設備は皆様の生命・財産を火災から守るための大切な設備です。取扱説明書をよく読み、各機器の正しい取り扱いを理解して、緊急時に備えてください。
- この設備は、常に正常な状態を維持するよう、有資格者による定期点検と日常の点検を行ってください。  
(定期点検は、施主様と施工店または点検契約店でご契約ください。)

- 必ず1～3ページをお読みください。
- 点検・施工される方は23～37ページをお読みください。
- 取り扱いされる方は4～20ページをお読みください。

### 連絡先一覧表

施工店や点検契約店など、記入されておくと便利です。

点検契約店	TEL
施工店	TEL
設備竣工	年 月 日

### 取り扱いについてのご注意

- 平常時には次のことを守ってください。受信機の取り扱いを誤ると火災時に正しく作動せず、避難や消火活動が大幅に遅れるおそれがあります。
  - 扉内のブザー(音響)停止スイッチを押さない。
  - 電源スイッチや電池を切らない。
  - 扉内のベル(地区音響)一時停止スイッチを押さない。
  - 正常な監視状態にあるか確認する。(9ページ参照)
- 警報が鳴ったら、まず現場を確認してください。

#### 火災の場合

- 119番などに通報する。
- 避難誘導および、可能であれば初期消火をする。

#### 火災でない場合



- 発生原因がわかれば取り除く。
- 発生原因不明のときは点検契約店に連絡し、再発防止を施す。

# 安全上のご注意



## 必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

 <b>警告</b>	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
 <b>注意</b>	「傷害を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。  
(次は図記号の例です。)

	してはいけない内容です。
	実行しなければならない内容です。

# 安全上のご注意

●ケガや事故防止のため、以下のことを必ずお守りください。

## 警告

### ■取り扱い管理される方へ



禁止

- 保守・点検以外で、扉内にあるブザー(音響)停止スイッチ、ベル(地区音響)一時停止スイッチを押さないでください。(スイッチ内のランプが点滅状態)  
火災時、すぐに警報音が出ないため避難・消火活動が大幅に遅れる危険があります。
- 防火管理者および消防設備士などの資格者以外は受信機内部に手を触れないでください。感電・故障の原因になります。
- ぬれた手で受信機をさわったり、水をつけたり、水をかけないでください。感電・故障の原因になります。
- 感知器は、絶対に取りはずさないでください。  
出火時に火災発見ができません。



分解禁止

- 機器を分解したり、修理・改造はしないでください。  
故障の原因になります。

### ■点検・施工される方へ



禁止

- 保守・点検以外で、ブザー(音響)停止状態・地区音響強制停止状態にしないでください。  
(ブザー(音響)停止灯・地区音響強制停止灯が点滅状態)  
火災時に警報音が出ないため避難・消火活動が大幅に遅れる危険があります。
- ぬれた手で受信機をさわったり、水をつけたり、水をかけないでください。感電・故障の原因になります。
- 感知器は絶対に取りはずさないでください。  
出火時に火災発見ができません。
- 電池は火に投入したり、ショートさせないでください。  
爆発したり、やけど、火災になるおそれがあります。



必ず行う

- 電池は必ず接続してください。  
電池が接続されていないと停電時に機能しません。



分解禁止

- 機器を分解したり、修理・改造はしないでください。  
故障の原因になります。

# 定期点検について

防災設備は、設置後の保守点検・維持管理がともなって、はじめて正常な機能を発揮する商品です。施工店または点検契約店と「点検契約」を結んでください。

## 点検は法律で義務づけられています……………



消防関係法令では、防火対象物の関係者(建物の所有者、管理者または占有者)は、定期点検の実施およびその結果を報告するように定められています。点検の結果は維持台帳に記録し、定められた期間ごとに消防長または消防署長に報告しなければなりません。

### ■消防法施行規則第31条の6

- 点検は、消防用設備などの種類および点検内容により1年以内で、消防庁長官が定める期間ごとに行う。
- 点検を行った結果は、維持台帳に記録し、消防機関へ報告を行わなければならない。

### ■点 検

対象の設備	点検の内容および方法	点検の期間
自動火災報知設備	機 器 点 検	6カ月に1回
	総 合 点 検	1年に1回
配 線	総 合 点 検	1年に1回

### ■報 告

特定防火対象物の場合	1年に1回
特定防火対象物以外の場合	3年に1回

## 点検には資格が必要です……………



定期点検は、国が定めた資格者(消防設備点検資格者または消防設備士)が行うよう、法令で定められています。

### ■消防法第17条の3の3

- 消防用設備の点検は、消防設備士または総務省令で定める資格者に行わせなければならない。

## 「専門知識を有する会社」と点検契約をおすすめします



日本ドライケミカル製品取扱店と「点検契約」を結びますと、専門の知識・技術を持つ有資格者が定期的に訪問し、責任を持って防災設備の点検をいたします。防災設備の正常な機能を維持するために、「点検契約」を結ばれることをおすすめします。

## 取り扱いされる方へ

### もくじ

1.各部のなまえとはたらき	5~6
2.お手入れ方法	7
3.ご 注 意	8
4.平常時の受信機の状態	9
5.火災時のベル(地区音響) 一時停止動作について	11~14
6.受信機が警報した場合	15~16
●火災のとき	15~16
●火災でないとき	15~16
7.日常点検	17
8.異常時の点検・処置	18~20

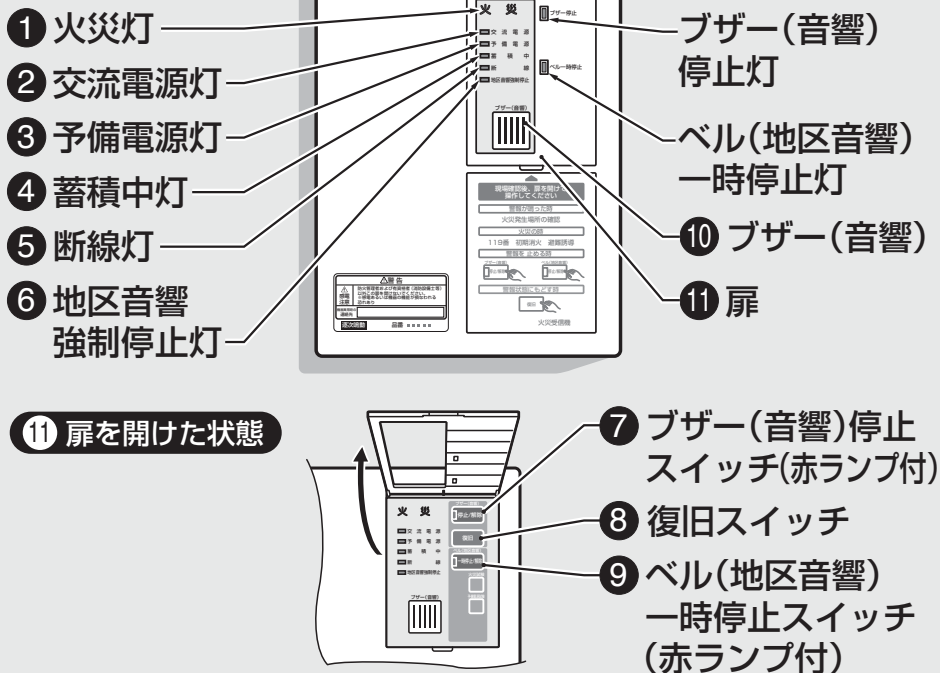
# 1.各部のなまえとはたらき

## 警告



禁止

- 防火管理者および消防設備士などの資格者以外は受信機内部に手を触れないでください。感電・故障の原因になります。
- 保守・点検以外で、扉内にあるブザー(音響)停止スイッチ、ベル(地区音響)一時停止スイッチを押さないでください。(スイッチ内のランプが点滅状態)  
火災時、すぐに警報音が出ないため避難・消火活動が大幅に遅れる危険があります。
- 扉内にあるブザー(音響)停止スイッチ、復旧スイッチ、ベル(地区音響)一時停止スイッチ以外のスイッチは操作しないでください。(点検資格者、消防設備士が操作するところです。)



### 1 火災灯(赤)

火災信号が入れば点滅します。

### 2 交流電源灯(緑)

交流電源が入っていることを点灯で知らせます。

### 3 予備電源灯(緑)

電池が接続されていることを点灯で知らせます。

### 4 蓄積中灯(赤)

火災信号による蓄積中に点灯します。

### 5 断線灯(赤)

感知器配線の断線を点滅で知らせます。

### 6 地区音響強制停止灯(赤)

地区音響強制停止状態になっていると点滅で知らせます。  
点滅時は施工店または点検契約店へ連絡してください。  
(約1分間隔でピッ音が鳴ります。)

### 7 ブザー(音響)停止スイッチ(赤ランプ付)

押すと音響が止まり、スイッチ内のランプが点滅します。  
もう一度、スイッチを押すとブザー(音響)停止状態が解除され、スイッチ内のランプが消灯します。

### 8 復旧スイッチ

押すと火災灯が消灯し、音響・地区音響が止まり、通常の監視状態に戻ります。

### 9 ベル(地区音響)一時停止スイッチ(赤色ランプ付)

押すと地区音響が止まり、スイッチ内のランプが点滅します。もう一度、スイッチを押すと地区音響の一時停止状態が解除されスイッチ内のランプが消灯します。

### 10 ブザー(音響)

連続音(ピー)で火災を知らせます。

### 11 扉

スイッチ保護用のカバーです。

## 付属品 (本体内部にあります。)

予備ヒューズ……………3本  
ヒューズ抜き差し工具…1コ

## 付属品

取扱説明書(本紙)……………1冊  
施工説明書……………1枚

## 2. お手入れ方法

### ⚠ 注意

- 清掃時、受信機のスイッチなどが正常な監視状態にあるか確認してください。  
正常な監視状態でないと火災時に正しく動作しません。  
〔「4. 平常時の受信機の状態」(9ページ)を確認〕  
してください。

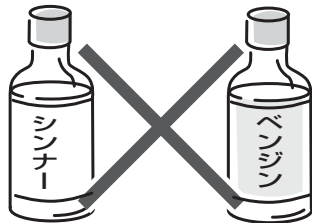
### ■表面が汚れた場合は、次の方法でお手入れください。

- ふだんのおそうじは…  
やわらかい布でふき取ってください。

- 汚れが目立つときは  
中性洗剤を薄めた液にやわらかい布を浸し、  
固く絞ってふき取ってください。

〔化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書〕  
にしたがってください。

- 注** ●ベンジンなどは引火性があるため危険ですので、  
使用しないでください。

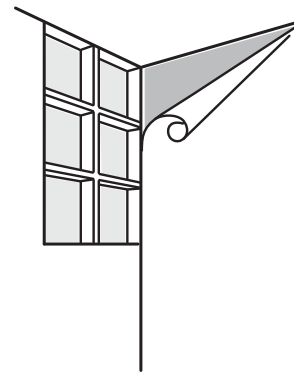


## 3. ご注意

- こんなときは、消防法に適合しなくなったり、この設備が正常に機能しなくなるおそれがありますので、定期点検の時期まで待たずに、点検契約店にご連絡ください。

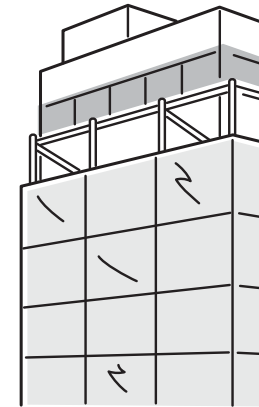
### 増改築

- 増築や改装をしたとき



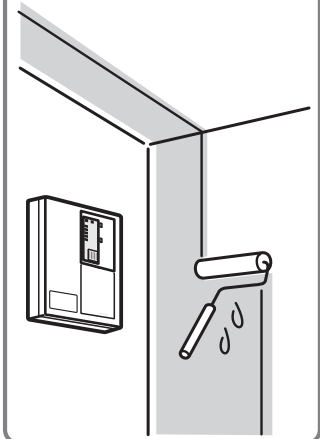
### 修繕

- 建物を修繕したとき



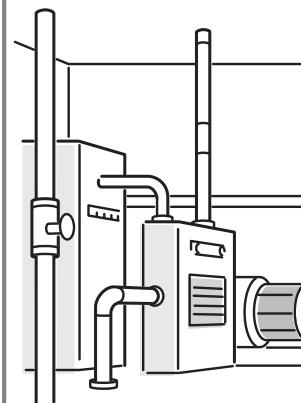
### 塗りかえ

- 天井や壁を塗りかえたとき



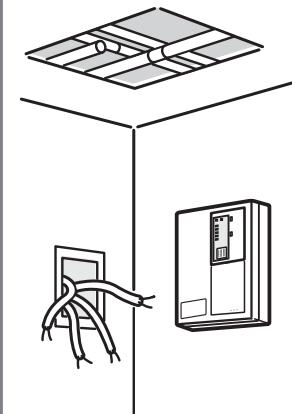
### 設備工事

- 設備の工事をしたとき



### 電気・ガス・水道工事

- 電気・ガス・水道工事をしたとき



### 天災被害

- 台風・雷・地震などの被害を受けたとき





# 5.火災時のベル(地区音響)一時停止動作について

## ベル(地区音響)一時停止動作について

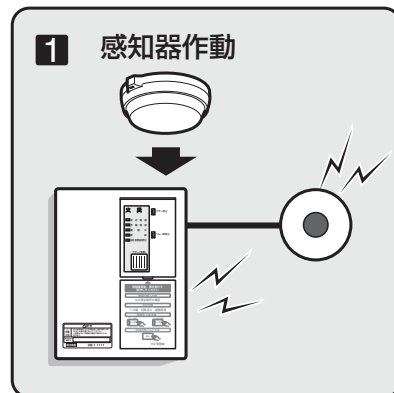
- 感知器が作動し、地区音響が鳴動しているときにベル(地区音響)一時停止スイッチを押すと地区音響が一時的に停止します。その後、受信機内で設定された時間(自動解除時間(TA))経過後に再度、地区音響が鳴動する動作です。一時停止中に発信機の発報が入った場合は、自動解除時間(TA)中であっても自動的に解除し、地区音響が鳴動します。

### ■自動解除時間(TA)の設定が2分の場合

- 自動解除時間(TA)の設定については、施工説明書を参照してください。

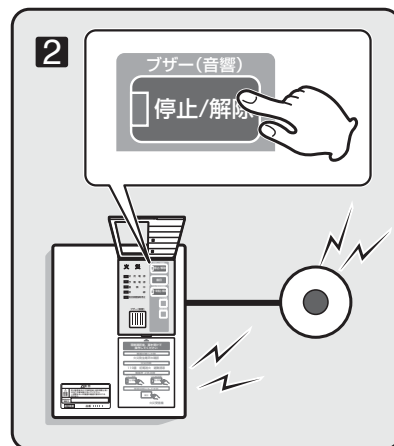
#### 1 感知器が作動する。

- 音響・地区音響が鳴動します。  
火災灯は点滅します。



#### 2 扉内のブザー(音響)停止スイッチを押す。

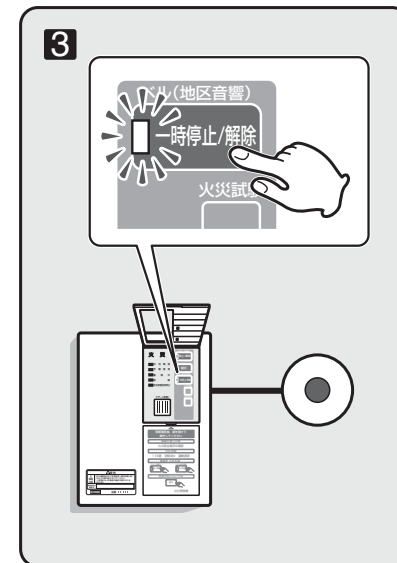
- 音響が停止します。  
火災灯は点滅しています。
- 地区音響は鳴動しています。



#### 3 扉内のベル(地区音響)一時停止スイッチを押す。

- 地区音響が停止し、約2分後に再び鳴動します。  
再度、押すと地区音響が停止し、約2分後に再び鳴動します。

- ※感知器が復旧している場合、扉内の復旧スイッチを押すと地区音響一時停止状態は解除され通常の監視状態に戻ります。
- ※発信機の押ボタンが押されると地区音響が鳴動します。



### MEMO

---

---

---

---

---

---

---

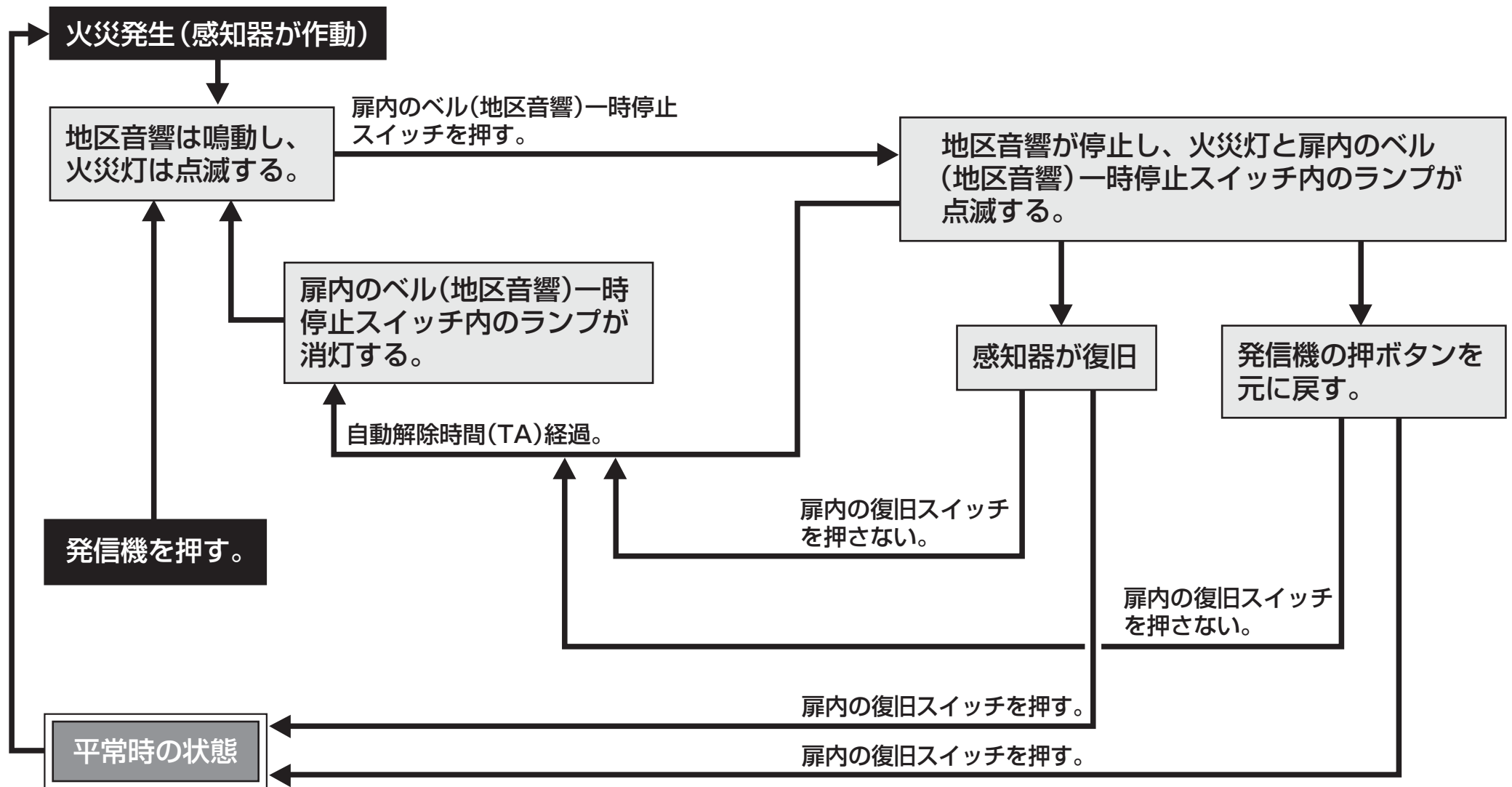
---

---

---

# 5.火災時のベル(地区音響)一時停止動作について

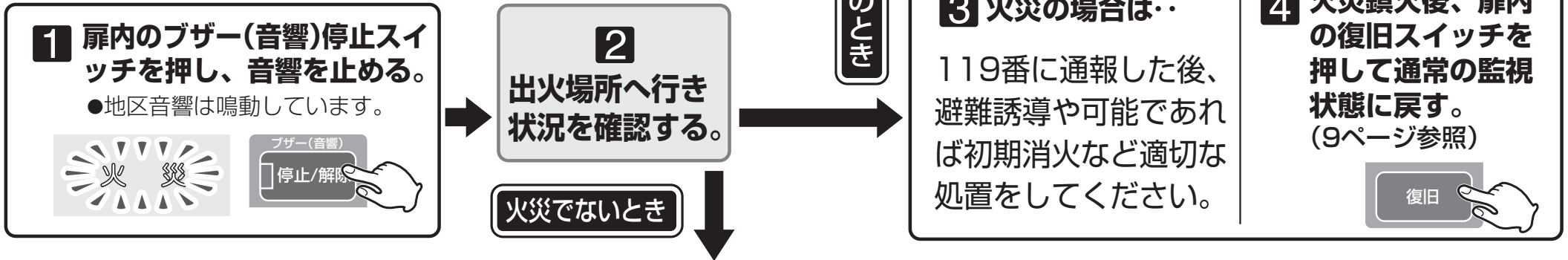
## ベル(地区音響)の鳴動/停止動作について





# 6.受信機が警報した場合

■音響が鳴ったら、次の手順で操作してください。



## 火災でないとき

■感知器は火災でないときでも作動することがあります。

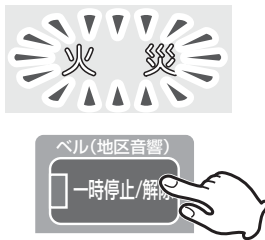
**煙感知器** 水蒸気・ホコリ・調理の煙などでも作動することがあります。  
**熱感知器** ストープなど暖房の熱が直接当たったり、感熱部が変形すると作動することがあります。

### 3 扉内のベル(地区音響)一時停止スイッチを押して、地区音響を止める。

●スイッチ内のランプが点滅します。

**注** ●スイッチ内のランプは、自動解除時間(TA) (約2分間・約4分間・約6分間・約8分間) 経過後に消灯し、地区音響が再び鳴動します。

(自動解除時間(TA)の設定については、施工説明書を参照してください。)



### 4 警戒場所で、次の状況を確認め処置する。

#### 1 感知器が作動していないか？

確認灯付感知器の場合、作動した感知器の確認灯が点灯します。

**処置** 作動した感知器から煙または熱を取り去ってください。

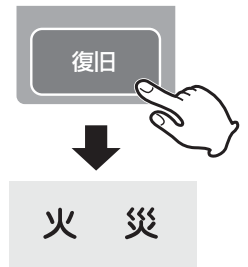
#### 2 発信機の押ボタンが押されたままになっていないか？

**処置** 発信機の押ボタンを元に戻してください。

### 5 扉内の復旧スイッチを押し、火災灯が消えるか確かめる。

●ベル(地区音響)一時停止スイッチ内のランプが消えます。  
 ●感知器の確認灯も消えます。

※火災灯が消えない場合はもう一度 **4 5** の手順を繰り返してください。



### 6 1で音響停止させた扉内のブザー(音響)停止スイッチを再度、押す。

### 7 通常の監視状態に戻る。(9ページ参照)

火災灯が消えない場合や処置できない場合は、点検契約店へご連絡ください。

# 7. 日常点検

## ⚠ 注意

●日常、次の点検を行ってください。  
点検を行わないと緊急時の操作に支障をきたしたり、不動作、作動遅れ、誤動作の原因となります。

### 受信機

1. 「4. 平常時の受信機の状態」に保たれているか？ (9ページ参照)
2. 近くに、操作の支障となる障害物が置かれていないか？

### 感知器

1. 変形、割れなどがいないか？
2. ペンキなどで塗装されていないか？
3. ビニールテープなどが貼り付けられていないか？
4. クモの巣などがついていないか？
5. 下にストーブなどの熱源が置かれていないか？
6. 火災の感知を妨げる障害物がいないか？
7. 下に多量に煙の発するものを使用していないか？
8. 空気管が切れたり、つぶれたりしていないか？

### 発信機

1. 変形、損傷などがいないか？
2. 近くに、操作の支障となる障害物が置かれていないか？

### 表示灯

1. ランプが消えていないか？
2. カバーの割れ、亀裂はないか？

### 地区ベル

1. 変形、損傷などがいないか？

機器に異常が見つかった場合は、点検契約店へご連絡ください。

# 8. 異常時の点検・処置

## ⚠ 警告



必ず行う

●この設備に異常があるときは以下の点検・処置をしてください。異常を放置すると火災時に警報が出ないため避難・消火活動が大幅に遅れる危険があります。

●以下の異常状態のときは、取り扱いされる方が点検・処置をしてください。

状態	点検	処置
交流電源灯が 消灯している。	自動火災報知設備専用ブレーカーが「切(OFF)」側になっていないか？	専用ブレーカーを「入(ON)」側にする。
火災でないのに警報動作をする。	煙感知器の近くに調理の煙・水蒸気・ホコリなどが滞留していないか？	煙・水蒸気などを取り除き、扉内の復旧スイッチを押す。
	熱感知器の近くにストーブなど暖房の熱が直接当たっていないか？	熱などを取り除き、扉内の復旧スイッチを押す。
	発信機の押ボタンが押されたままになっていないか？	発信機の押ボタンを元に戻し、扉内の復旧スイッチを押す。
	どこにも火事や煙の発生がないことを十分確認しましたか？	地区音響を再鳴動させたくない場合は、地区音響強制停止状態にしてください。(27ページ参照)
		<b>注</b> ●地区音響強制停止灯が点滅し、約1分間隔でピッ音が鳴ります。この状態のままでは、正常に警報動作を行うことができません。必ず施工店または点検契約店に連絡してください。

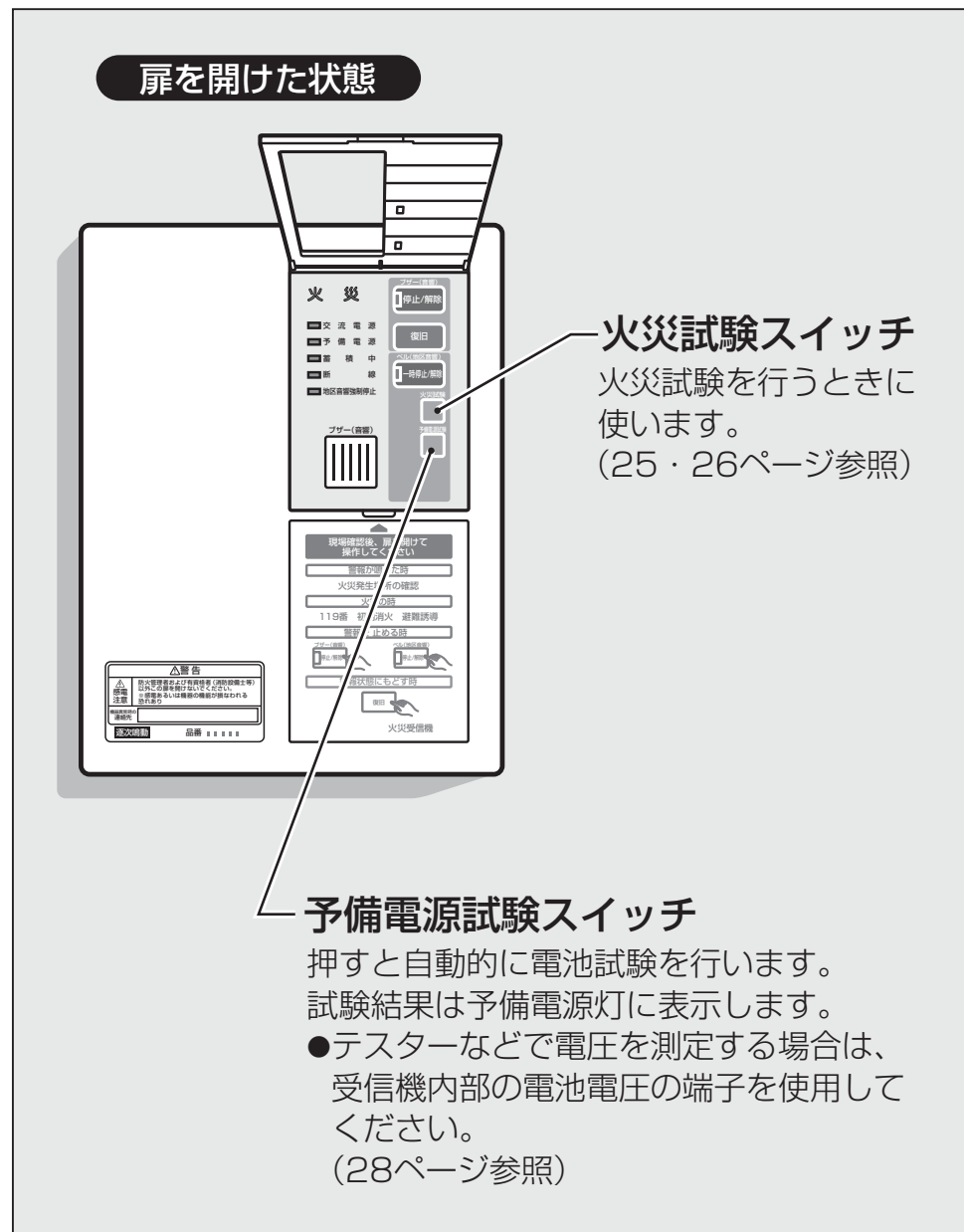




もくじ

1.各部のなまえとはたらき	24
2.点検のしかた	25～28
●点検をするまえに	25
●火災試験の方法	25～26
●地区音響強制停止の方法	27
●電池試験と電池の電圧測定方法	28
3.部品などの交換方法	29～33
●受信機の電池の交換	29
●受信機のヒューズの交換	31～32
●感知器・表示灯について	33
4.内部回路図	35～36
5.定格・仕様	37

# 1.各部のなまえとはたらき



## 2.点検のしかた

### 点検をするまえに

#### ⚠ 注意



必ず行う

- 点検などで作動させる場合は、連動している設備の内容を十分確認して操作してください。不用意な操作は機器類に損害を与えたり、人に危害をおよぼすおそれがあります。
- 扉は操作後、必ず閉じてください。引っ掛けてケガをしたり、誤操作の原因となります。

### 火災試験の方法

この火災試験は、受信機内の試験をします。実際の火災発生時にシステムとして正常に作動することの確認は、感知器、発信機などの機器も含めて試験してください。

#### ⚠ 警告



必ず行う

- 試験終了後は、該当するスイッチを平常時の状態に戻してください。(9ページ参照)  
戻さないと火災時、正常な火災警報動作をしません。

■以下の試験は、扉を開けてください。

**1** 試験時、ブザー(音響)、ベル(地区音響)を鳴動させないようにする場合は、次の該当するスイッチを押す。

- 地区音響強制停止状態にしてください。(27ページ参照)  
B-BC(DC24V出力)が連動しません。  
(約1分間隔でピッ音が鳴ります。)
- 受信機の音響を鳴動させない場合は、「ブザー(音響)停止スイッチ」を押してください。(ブザー(音響)停止灯が点滅します。)

**2** 火災試験スイッチを押し続ける。

- 蓄積中灯(赤)が点灯しますので、この間(約7秒間)押し続けてください。

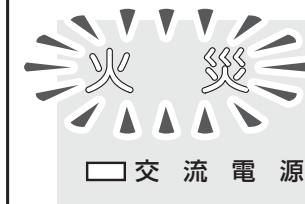
2



**3** 火災灯が点滅する。

- 火災灯は、復旧スイッチを押すまで点滅します。

3



**4** 復旧スイッチを押して、警報を止める。

**5** **1**で音響停止させたスイッチを平常時の状態に戻す。  
(スイッチ内のランプは消灯します。)



- 地区音響を止めた場合は、地区音響強制停止状態を解除してください。  
(27ページ参照)  
(地区音響強制停止灯が消灯します。)

4



**6** 平常時の監視状態に戻る。  
(9ページ参照)

### 試験中に火災を受信した場合

- 試験中に火災を受信した場合、**4**の操作のあとに火災警報します。

## 2.点検のしかた

### 地区音響強制停止の方法

- 点検時、地区音響を鳴動させない場合に設定します。

#### 警告

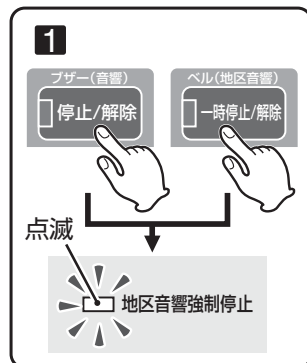
- 操作終了後は、地区音響強制停止灯が点滅しないよう該当するスイッチを平常時の状態に戻してください。(9ページ参照)  
必ず行う 戻さないと火災時、正常な火災警報動作をしません。

#### ■以下の操作は、扉を開けてください。

- この操作を行うとブザー(音響)停止スイッチ、ベル(地区音響)一時停止スイッチのスイッチの状態が変わりますので注意してください。

#### 1 ブザー(音響)停止スイッチとベル(地区音響)一時停止スイッチを同時に2秒以上押し続ける。

- 地区音響強制停止灯が点滅します。  
〔ブザー(音響)停止スイッチとベル(地区音響)一時停止スイッチを離してください。〕



#### 2 地区音響強制停止状態になる。

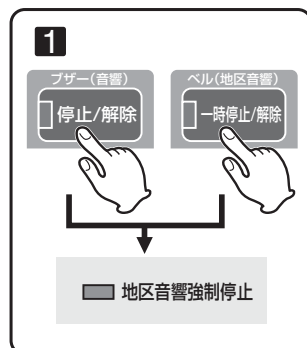
- 約1分間隔でピッ音が鳴ります。

#### 解除する場合

#### ■以下の操作は、扉を開けてください。

#### 1 ブザー(音響)停止スイッチとベル(地区音響)一時停止スイッチを同時に2秒以上押し続ける。

- 地区音響強制停止灯が消灯します。  
〔ブザー(音響)停止スイッチとベル(地区音響)一時停止スイッチを離してください。〕



#### 2 地区音響強制停止状態が解除される。

### 電池試験と電池の電圧測定方法

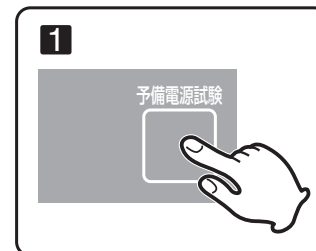
この試験は、受信機の予備電源として内蔵されている電池に異常がないかを調べるものです。電池の電圧を測定する場合は、下記の「電圧測定」をしてください。

#### 電池試験

#### ■以下の試験は、扉を開けてください。

#### 1 予備電源試験スイッチを押す。

- 交流電源灯が消灯します。



#### 2 試験結果が「良」の場合は、予備電源灯が点灯し、「不良」の場合は、予備電源灯が点滅する。

- 「不良」の場合、電池を交換してください。(29ページ参照)



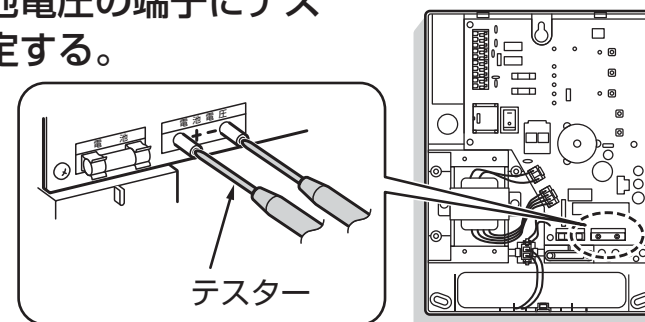
#### 電圧測定

#### ■以下の測定は、カバーをはずしてください。

#### ■予備電源試験スイッチを押している間に本体内の電池電圧の端子にテスターをあてて測定する。



- 極性を間違えないよう、注意してください。



# 3.部品などの交換方法

MEMO

## 受信機の電池の交換

### 電池交換時の注意事項

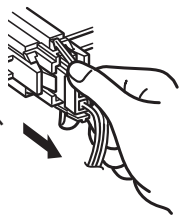
- 電池を取りはずすときは、必ずAC100V電源は「切」の状態で行ってください。
- ニカド電池は、当社受信機専用品(受託評価適合品)をご使用ください。(37ページ参照)

### お願い事項

- ニカド電池はリサイクル可能な貴重な資源です。  
ご使用済の電池は捨てないで、リサイクルへご協力ください。
- ニカド電池の寿命は約5年です。取り付け日から5年をめやすに交換してください。停電時、正常に機能しない場合があります。

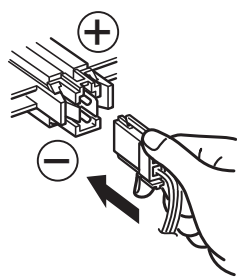
### 接続コネクタの取りはずし方

**1** 接続コネクタの両端をつまみながらぬき、電池を取りはずす。



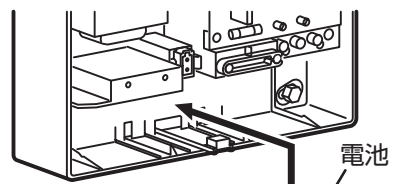
### 取り付ける場合

**1** 新しい電池の接続コネクタを差し込み、電池を本体内に収納する。

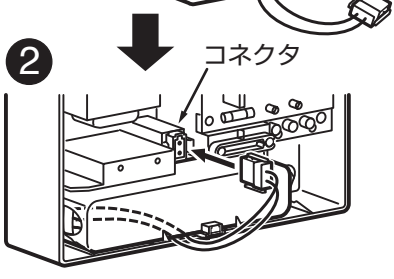


### 電池の収納方法

**1**



**2**




---



---



---



---



---



---



---



---



---



---



---



# 3. 部品などの交換方法

## 受信機のヒューズの交換

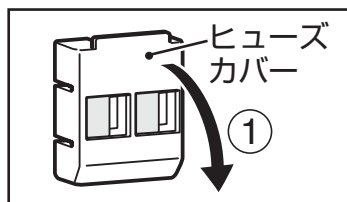
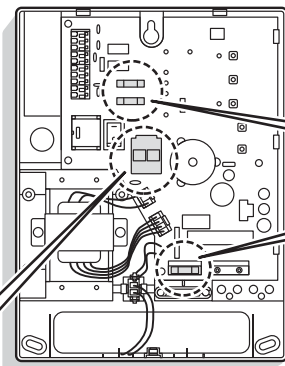
### 警告



禁止

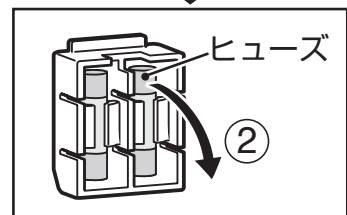
- ヒューズ交換は電源(AC100V)を切った状態で行ってください。感電のおそれがあります。
- ヒューズは必ず指定のものをご使用ください。それ以外のものを使用した場合、発火・故障の原因になります。

- 注 ●予備ヒューズは、電流容量違いがありますので必ず指定のものを使用してください。



①

↓

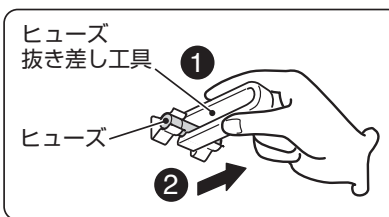


②

- ① ヒューズカバーの上側を起し、ヒューズカバーを取りはずす。
- ② ヒューズをヒューズカバーから取りはずす。
- ③ ヒューズを取り付ける。
  - ① 予備ヒューズをヒューズカバーに押し込む。
  - ② ヒューズカバーを元の位置に押し込むと、「カチッ」と音がして完全に取付きます。

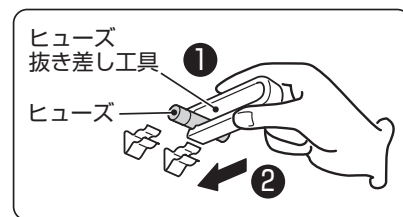
### 取りはずし方

- ① ヒューズにヒューズ抜き差し工具を挿入する。
- ② ヒューズ抜き差し工具をつまみ、引っ張る。

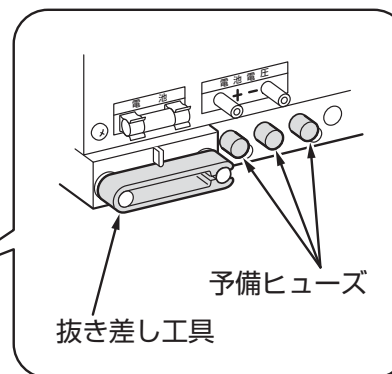
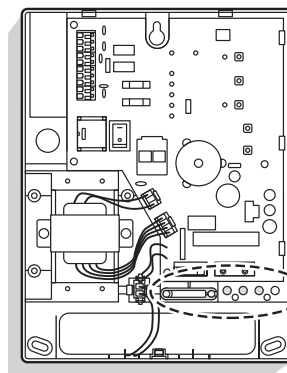


### 取り付け方

- ① ヒューズ抜き差し工具にヒューズを挿入する。
- ② ヒューズ抜き差し工具をつまみ、ヒューズ金具に挿入する。



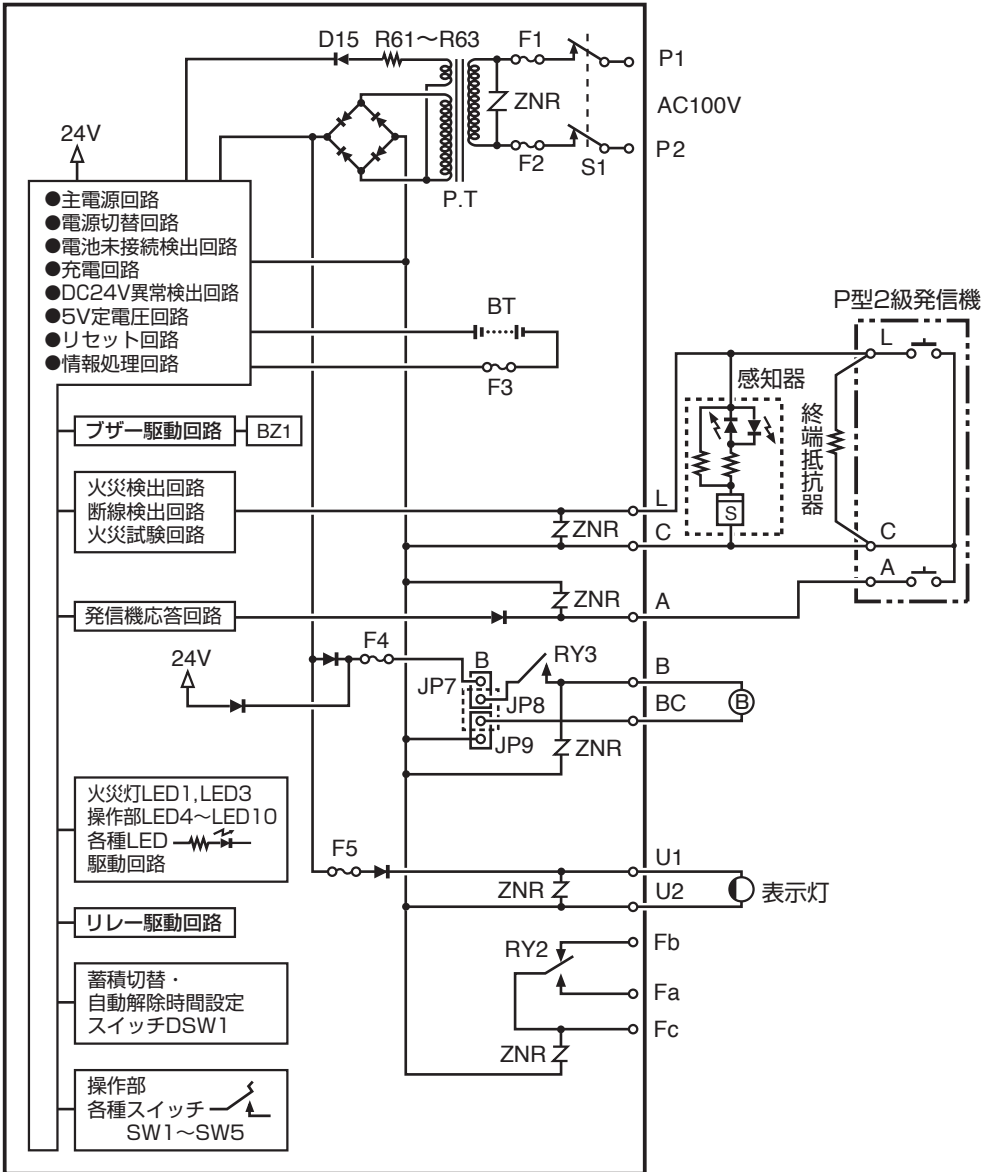
- ヒューズ抜き差し工具は、本体に入っています。





# 4.内部回路図

- スイッチおよびリレーの接点方向は平常時の状態を示します。
- 地区音響出力を有電圧出力とする場合は、切替設定コネクタをJP7,JP9に挿入してください。無電圧接点出力とする場合は、切替設定コネクタをJP8に挿入してください。（詳細は施工説明書の「機能設定」を参照してください。）



## ご注意

- 蓄積型感知器・蓄積式中継器・中継リレー・火災表示灯は接続できません。
- 当社煙感知器(光電式・イオン化式)は20コまで接続可能。
- 当社自己保持型熱感知器は35コまで接続可能。
- 当社光電式分離型感知器は1コまで接続可能。
- 当社炎感知器は当社にお問い合わせください。
- 当社自己保持型熱感知器と当社煙感知器・当社炎感知器との混在接続の場合は、当社にお問い合わせください。
- 当社光電式分離型感知器と他の感知器との混在接続はできません。
- 必ず受信機の地区ベル接続容量以内でご使用ください。
- 建物のリニューアル時などで受信機を交換する場合は下記内容にご注意ください。

1.地区ベルが他社製の場合は、地区ベルのメーカーに駆動方式が電磁式でないことを確認してください。電磁式の場合は、受信機の内部回路を破壊するおそれがあります。

記号	名称
S1	交流電源スイッチ
F1, F2	交流一次側ヒューズ
F3	電池ヒューズ
F4	地区音響ヒューズ
F5	表示灯ヒューズ
BZ1	音響
RY3	地区音響リレー
RY2	火災代表移信リレー
BT	電池
ZNR	サージアブソーバ
P.T	トランス
LED1, LED3	火災灯
LED4	交流電源灯
LED5	予備電源灯

※ZNR(サージアブソーバ)は雷サージ対策部品です。

記号	名称
LED6	蓄積中灯
LED7	断線灯
LED8	地区音響強制停止灯
LED9	ブザー(音響)停止灯
LED10	ベル(地区音響)一時停止灯
R61~R63	充電抵抗
SW1	ブザー(音響)停止スイッチ
SW2	復旧スイッチ
SW3	ベル(地区音響)一時停止スイッチ
SW4	火災試験スイッチ
SW5	予備電源試験スイッチ
DSW1	蓄積切替・自動解除時間設定スイッチ
JP7~JP9	地区音響出力切替設定コネクタ

